

講習会 3 釉掛け、スプレー編

09. 9. 26

深大寺陶芸教室では、コンプレッサーを備え、キリフキとスプレーガンを使っています。それぞれ特徴があり、分けて解説します。

☆キリフキ

年配の方には懐かしい、真ちゅうのキリフキにエアガンを組み合わせた物です。

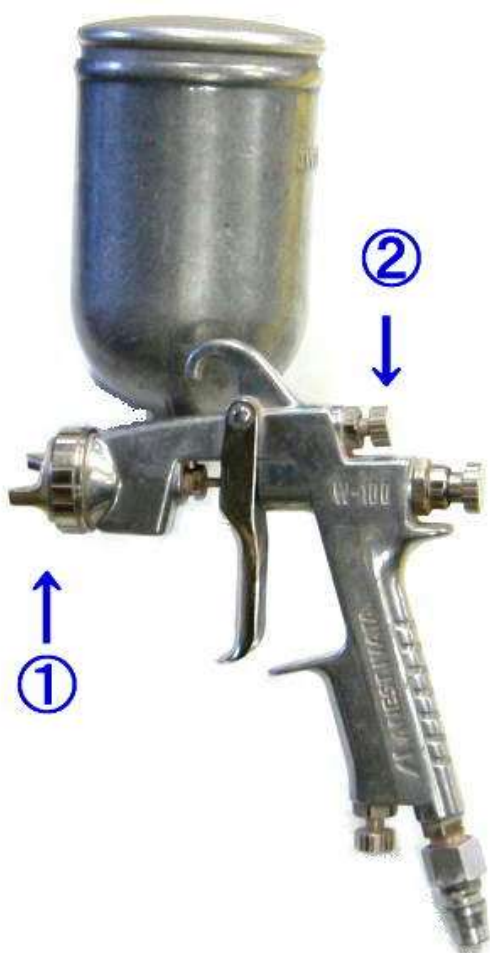


フルイで漉す 圧力は0.2MP 作品を手前に傾けて

特徴は、目詰まりしにくく、扱いが簡単。反面、施釉がおおざっぱになり、真上、真下には吹けません。使い方は釉をフルイでこします。下には吹けませんので、作品を手前に傾けて、吹きかけます。

☆スプレーガン

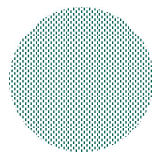
車の塗装などに使う、重力式のスプレーガンです。



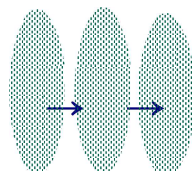
釉を漉す 真下にも吹ける 立吹き横吹き

特徴はノズルが小さく、横吹き縦吹き、荒吹き細吹きが出来、真上、真下にも正確に施釉出来ます。反面、ノズルが詰まりやすく、用意、片付けなどの扱いが煩雑です。

丸吹き。②を閉める、吹きかけるパターンが丸い。大まかに広い範囲を吹くときに良い。



縦横吹き。②を開ける、①で縦横調整、パターンが楕円。図のようにガンを横に移動すれば、広い面を均一に吹ける。



使用例



例 1



例 2



例 3

例 1 釉薬の容器に入らない大きな作品を、むらなく均一に掛ける。
例 2、3 灰が窯の中を飛ぶイメージで、焼締の雰囲気を作る。



例 4



例 5



例 6

例 4 型紙で伏せて、釉のグラデーション。
例 5 藁と粘土で伏せて、備前のボタモチ風に。
例 6 絵の具を型紙で伏せて、絵付けに。



例 7

例 7 エアの圧力を下げると、釉薬の粒が大きくなることを利用する。面を梨地(梨の表面のマット調)に。

ワンポイントアドバイス

コンプレッサーも安くなり、以前は数十万円でしたが、最近は2万円ほどで、そろそろようになりました。これがないと出来ないことも多くありますので、ぜひ揃えたい道具です。反面、音がする、廻りが汚れる、場所を取る、などマイナス面もあります。

ワンポイントアドバイス



2種類以上の釉を使うと、全体のバランスを取ることが難しくなります。ここで紹介したように、同じ釉で濃淡により大きく色が違う物を使えば、調和のとれた釉調になります。

ブラシとザルを使えば、コンプレッサーが無くても、焼き締め雰囲気を作れます。口でふく、キリフキも市販されています。